

いわてまち 社協だより



113号

2025.3月



岩手町身体障がい者協議会（田中幸雄会長、会員 18 人）はモルック交流会を開催しました。会員たちは、スキットルと呼ばれる木製のピンを目掛け、モルックを投てき。倒したピンの点数に一喜一憂しながら、楽しく交流を深めました。（2月28日、旧浮島小学校体育館）

地域の福祉力向上に決意新た



地域の社会福祉向上に貢献した皆さんへ藤原会長④から表彰状を授与

第44回岩手町社会福祉大会（藤原徳明大会長）が令和6年12月5日、岩手広域交流センタープラザあいで開催され、町内の福祉・教育関係者約50名が参加しました。

「住民総参加による生涯現役の福祉のまちづくり」をスローガンに掲げたこの大会のオープニングは、岩手町立一方井保育所の園児による「一方井音頭」と「キッズソーラン」で賑やかにスタート。町の社会福祉向上に尽力された方々の表彰のほか、福祉作文コンクール最優秀受賞者の発表が行われました。表彰された方は次のとおりです。（敬称省略）

◆社会福祉事業功労者

● 多年にわたり町民生委員児童委員として地域の社会福祉の向上に貢献

森子百合子（尾呂部）

水谷文子（下苗代沢）

田中幾子（上苗代沢）

柴田輝子（石神）

久保恵子（久保）

田中幸子（境田）

● 多年にわたり町社会福祉協議会の保育士として児童の健全育成に貢献

佐藤寛子（水堀保育所）
星野佳織（一方井保育所）

◆共同募金運動功労者

● 多年にわたり共同募金会奉仕者として共同募金運動に協力

小西清吾（駅通地区行政連絡員）

◆広く社会に顕彰するもの

● 社会福祉事業に対する功勞奉仕等で貢献

岩館力ツ（三翔会）

子どもたちの思いやりの心・助け合いの心

岩手町福祉作文コンクールは、地域社会や家庭での体験を通じて、思いやりの心・助け合いの心を養い、地域福祉への理解と関心を高めることを目的として実施しており、今大会では最優秀賞を受賞した児童・生徒5名の発表が行われました。

なお、第32回岩手町福祉作文コンクール最優秀作品は、5ページ以降で紹介します。



第32回岩手町 福祉作文コンクール 最優秀賞受賞者

(敬称略)

- 小学校低学年の部
『町のヒーロー』
一方井小学校 2年 田村心菜
- 小学校中学年の部
『わたしのおばあちゃんと車いす』
沼宮内小学校 4年 荒木田美空
- 小学校高学年の部
『みんなが助け合えば』
川口小学校 6年 千葉結萌
- 中学校の部
『私の個性』
沼宮内中学校 1年 高橋莉子
- 高等学校の部
『偏見が作る弊害』
沼宮内高等学校 2年 府金流駈

第32回岩手町福祉作文コンクール

町社会福祉協議会では、地域福祉への理解と関心を高めることを目的として、福祉作文コンクールを毎年開催。32回目を迎えたコンクールには、学校、家庭、福祉施設での体験や、高齢者・障がい者との交流によって育まれた思いやり、助け合いの気持ちなど、福祉の心にあふれた71点の作品が寄せられました。本紙ではその中から最優秀賞受賞作品を紹介します。

入選作品

《小学校 低学年の部》（応募総数4点）

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	一方井小学校	2	田村 心菜	町のヒーロー
優秀賞	川口小学校	1	四日市レイ	みまもってくれてありがとう
佳作	一方井小学校	1	千葉 涼羽	たいせつなひとにてがみをかこう
佳作	川口小学校	2	青沼 柊和	おかあさんのお手つだい

《小学校 中学年の部》（応募総数9点）

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	沼宮内小学校	4	荒木田美空	わたしのおばあちゃんと車いす
優秀賞	沼宮内小学校	4	清水 健翔	岩手町に住むお年よりのために
佳作	川口小学校	3	木影 航大	ぼくのおかあさん
佳作	川口小学校	4	中田 輝星	ぼくのおばあちゃん
佳作	沼宮内小学校	4	久保 結仁	ふだんのくらしを幸せに

《小学校 高学年の部》（応募総数4点）

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	川口小学校	6	千葉 結萌	みんなが助け合えば
優秀賞	一方井小学校	5	丹内 大翔	ぼくにできること
佳作	川口小学校	5	佐藤 瑠香	初めての思い
佳作	一方井小学校	6	今松 紗羅	私ができること

《中学校の部》（応募総数7点）

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	沼宮内中学校	1	高橋 莉子	私の個性
優秀賞	一方井中学校	3	松本 麗菜	保育について私が今考えていること
佳作	一方井中学校	1	田中 翔	ぼくのひいおばあちゃんとひいおじいちゃん
佳作	沼宮内中学校	2	上野 楓華	大好きなじじ

《高等学校の部》（応募総数47点）

入選	学校名	学年	氏名	作品名
最優秀賞	沼宮内高等学校	2	府金 流駆	偏見が作る弊害
優秀賞	沼宮内高等学校	2	佐藤 美空	福祉の未来
佳作	沼宮内高等学校	1	大森 絢陽	私が将来の夢から考えること
佳作	沼宮内高等学校	1	武田 紗枝	改めて感じること
佳作	沼宮内高等学校	2	中村 翔真	後悔しない生き方
佳作	沼宮内高等学校	2	今松 咲桜	パワフルおばあちゃん
佳作	沼宮内高等学校	3	鈴木 絢心	触れあいの大切さ

福祉作文コンクール 最優秀作品紹介

小学校 低学年の部

町のヒーロー

一方井小学校 2年 田村 心菜

一方井の町には、ヒーローが何人もいます。その中の一人が、たんないさんです。どうしてかというのと、いつも町のみんなを見守ってくれているからです。



「おはよう。」

わたしが学校にとう校するときや下校するときは、道ろにかならずたんないさんが立っていて、声をかけてくれます。あつい夏も、さむいふゆも、一日も休まず立っていてくれます。立っているだけでなく、歩くところの草をかったり、ふゆには雪かきをしてくれたりしていました。

一年中、わたしたちのことを見守ってくれているたんないさん、雪がふってさむすぎるときは、大へんだな。いやにならないのかな。わたしは、たんないさんに聞いてみました。

「どうして立っているんですか。」
たんないさんは、にこにこして答えました。

「子どもたちが安全に学校に行けるように立っているんだよ。」

わたしは、みんなのためにさむいのもがまんしてがんばっているなんて、すごいと思いました。

わたしは、たんないさんとおしゃべりしながらいっしょに歩くときもありません。お話はおもしろいです。たとえば、見つけた木の葉の話や、みんなの名前をおぼえるのが大へんだという話です。お話すると、なんだか楽しくて元気が出るので、学校でもがんばろうという気もちになります。

ある日の朝、まい日立っていたたんないさんが、いませんでした。「どうしたんだらう。ねつがでたのかな。」

と、教しつではみんながしんぱいしていました。わたしは、一日会えなだけでとてもさみしかったです。つぎの週に、たんないさんがまたもどってきたとき、わたしは、すごく安心しました。

わたしも、いつか、みんなを見守って町のためにがんばるヒーローになりたいです。

小学校 中学年の部

わたしのおばあちゃんも車いすも

沼宮内小学校 4年 荒木田 あらきだ 美空 みく

わたしのおばあちゃんは、毎日薬を飲んで生活しています。薬のこうかが切れると、歩行がこんなになります。だから、一日に四回、薬を飲みます。薬を飲むと、自力で歩くことができるので、家では歩行器で生活しています。

おでかけをするときは、わたしとお母さんがいっしょです。薬がきいていると、おばあちゃんは、自分で歩きます。でも、買い物中に薬のこうかが切れると、車いすに乗ります。お母さんが、車いすを持ってきて、おばあちゃんを車いすに乗せて、また買い物します。

この間、学校で「キャップハンディ体けん」がありました。その中で、

わたしは、車いすと白杖の体けんをしました。最初、友達に介助してもらいながら目かくしをして歩きました。いつもは平気なかいだんも、とても不安でこわかったです。車いすは、いつもおばあちゃんが使っているの、よく見ていたけれど、自分が乗せてもらうのは初めてでした。ちよっぴりのだん差でも、一人ではこえることができないし、急に車いすが動く不安になることもわかりました。見ているのと、体けんするのではちがうんだなあと思いました。かい助をする人は、声をかけてあげたり、安全をたしかめてあげたり、車いすに乗っている人の気持ちを考えてあげることが大切だと教えていただきました。

おばあちゃんが病院に行く日は、

お母さんが一人で付きそって行っていました。でも、今は、おばあちゃんもいっしょに行ってくれるようになりました。おばあちゃんがいっしょに行ってくれると、お母さんも安心だと思います。わたしは、まだ、おばあちゃんが乗った車いすをかい助したことがあります。そこで、「キャップハンディ体けん」で学んだことを生かして、いつか、人につからないようにおばあちゃんの車いすをかい助してあげたいです。

わたしが上手に車いすをかい助できるようにになったら、おばあちゃんもお母さんも、もっと楽しくお買い物をしたり、病院にも安心して通ったりできると思います。これから、もっといろんな手助けができるようになったらうれしいです。



福祉作文コンクール 最優秀作品紹介

小学校 高学年の部

みんなが助け合えば

川口小学校 6年 千葉 結萌

私は、最近テレビをあまりみていませんでした。しかし、家族のみんながテレビを見ているので、私も一緒に、テレビを見てみました。すると、テレビの画面の下の方で、手話をしている人が映っていたのです。

四年生の総合の学習の時に、福祉をテーマにして、自分たちで課題をもち、いろいろと調べる学習をしました。その中に、耳が聞こえない人にとっての言葉となる、「手話」を課題にして発表しているグループがありました。それで、手話については、少し分かっていました。でも、本当に使われている



のをしっかりと見たのは、そのときが初めてでした。お母さんに、

「手話を使っているところは、あんまり見たことがない。」というと、

「昔からテレビでよく見るよ。まだまだ勉強不足だね。」

と笑われました。

お母さんは小学生のころから、看護師になるのが夢で、手話の本を図書館から借りてきて覚えようと頑張ったそうです。でも、周りに手話を使える人もいなかったし、一人で勉強するのも限界があつて、手話はあきらめたそうです。お母さんは、看護師になりましたが、手話はできません。でも、機会があればまた勉強してみたいかな、と言っていました。

私は、ドラマはちょっとあきてしまうので手話を使っているアニメを見ながら、手話の勉強をしました。耳が聞こえなくて、声を変だといじめられたり、筆談でも嫌なことを書かれたりして、見ていて少しつらい内容で

した。でも、筆談で会話するより、相手の表情を見ながら手話で会話をした方が、とても理解できることが分かりました。

最初から耳の聞こえる私は、手話を覚えるのが大変だし、周りに聞こえない人が全くないので手話なんて...と思いました。でも、お母さんに「じゃあ、最初から耳の聞こえない人は勝手に手話で話せるようになったのかな。」

と聞かれて、私ははっとしました。耳が聞こえない人も、私たちと一緒に文字を覚えたり、手話を覚えたりしたのだということに気づいたのです。

この世界の中には、耳が聞こえない人だけではなく、目が見えない人も、体が不自由な人もいます。その人たちもたくさんの努力をしていることに気づきました。障がいがある人みんなが、少しでも困ることがなく過ごしていけるように、私たちも、少し頑張らないとだめだと思います。少しでも、杖を持っている人のじゃまにならないようにしたり、盲導犬にはむやみに触ったりしないことなどです。そして、困っている時には、「何か、できることはありませんか。」と、声をかけてみることではないでしょうか。

中学校の部

私の個性

沼宮内中学校 1年 高橋 莉子たかはし りこ

ホルトオーラム症候群。この障がい
は、私がこれまで、そしてこれか
らもずっと向き合っていたかなければ
ならない障がい。今までも何度も何
度もたくさんの壁にぶつかってきた。

私が周りの人と自分の体の違いに
気がついたのは、保育所の年少のと
きだった。みんなの指の数は五本。
なのに自分の指の数を数えると四本
だった。その時は、特に何も感じる
ことはなかった。けれど、友達か
ら「莉子ちゃんの手、なんか変。」
そう言われたとき、周りとうとうとだ
めなのかな、そう思った。けれど、
保育所で使う給食の食器も私だけ持
ちやすい形の食器になっていたし、
箸だつてみんなは大人の使う箸だつ
たのに、私は、小さな子どもが使う
ような箸。周りの友達からは、いい
なあ、とか、ずるい、そんな声が上

がっていた。私は、なんでみんなと
違うの？同じだったら良かったの
に、そんなことばかり考えていた。

年中のとき、心房中隔欠損症の手
術をした。約七時間の手術だった。
そのときの手術の傷は今も残ってい
る。年長になっても、年少のときか
らの考えは残ったまま、保育所を卒
園、小学校に入学した。正直、入学
するのが怖かった。周りとうとうとい
うことで笑われないか、仲間外れに
されないか。だから私は、できるだけ
け周りに合わせるようにした。そう
したらどんどん友達も増えた。けれ
ど私の心の中の不安は大きくなって
いった。胸の傷がバレたらなんて言
われるだろう。やっぱりバカにされ
てしまうんだろうか。そんなことを
考えると、怖くなってしまつて正直
に本当のことを言えない自分がい
た。十二月には右手の手術があつ
た。小学校二年生の時は左手の手術

があつた。その時私は、友達に本当
のことを言おうと決意した。不安
だったけれど、みんなは笑つて、本
当の私を認めてくれた。けれど障が
いは障がいだし、同級生は知ってい
ても、年上や年下の人たちは知らな
い。だから結局私は周りに合わせる
ことをやめなかった。そのまま学年
は上がつていつて四年生になった。
四年生のときに、五年生の先輩に笑
われた。コソコソと私の手をバカに
してた。泣きそうになった。やつと
少しづつ本当の私で過ごせるよう
になったのに。なんで今なの。けれど
私もそこでくじけるほど弱くはな
かった。聞き流すことにした。周り
に何を言われようと、気にしなかつ
た。そうすると少し、楽だった。完
全に陰口がなくなったわけではない
けれど気にならなくなった。

五年生になって、私を変える出来
事が起きた。姉が六年生で、その姉
の同級生に、「障がいつてその人の
個性じゃん。」そう言われた。私の
心に衝撃が走つた。障がい個性？
バカにされたことのほうが多くて、
最初はお世辞で言っているんじゃない

福祉作文コンクール 最優秀作品紹介

ないかと思った。けれど友達のはまっすぐこつちを見ていて、本当に思ってた言ってくれたのだと分かったとき、とてもうれしかった。その時から、障がいをおぼわさ隠すのをやめた。初めて家族以外の人から言われた「個性」という言葉。私はそのとき、障がいを押し殺したくないと思った。自分らしく生きるようになったとき、これまで私の中にあった重い気持ちがあつさりなくなっていた。

このような経験を通して私が思い、感じたことは、周りと違うのは、全く悪いことではないということ。そして、周りと違うところが、自分だけの個性だということだ。自分、自分の個性を、周りに合わせるためだけに押し殺していたけれど、自分だけがもっている個性を大切に生きていくことが一番楽しい人生だと思ふようになった。私はこれから、障がいと真剣に向き合い、障がいという自分だけの個性を大切に生きていきたい。

高等学校の部

偏見が作る弊害

沼宮内高等学校 2年 府金 流駆

日頃、街で障害を抱えた人を見かけた時どんな気持ちになりますか。僕は「どうしたのかな」「かわいそうだな」と思い、興味を引く存在として目で追っていました。多分、この気持ちはあまり良くないのだろうと思っていました。いつもどこか他人事で、あまり関わりたくないなと小さい頃は思ってしまうこともありました。

しかし、今は違います。障害を抱えた人を見かければ、「何か困っていないか」「私にできることはないだろうか」と考えるようになりました。こんなふうになるようになった。きっかけは、小学校の頃に地域の取り組みで「地域生活支援センターへこうせん」に行ったことがきっかけ

です。この地域ボランティアは一年に一回、「地域生活支援センターへこうせん」の人たちと交流をします。生活支援センターの人の中には、僕達が普段当たり前だと思っていたことが当たり前にならず、生活していくのに不自由があり、できることの違いがたくさんありました。初めて生活支援センターを訪れた日、教室に入った瞬間に頭が真っ白になりました。今まで、保育園や高齢者施設での実習やボランティア活動をしたことがありましたが、障害を抱えた人とは関わったことのない未知の世界だったからです。そんな場所への不安と恐怖で、僕にできることは何もないのではないかと考えなくなってしまいました。時間が経つごとに環境には慣れていきました

が、私は何もできずただ立っていることが多くありました。そんな中、固くなっている僕を見て、むこうから声をかけてくれました。その人はエコキヤップを数える仕事をしている人でした。僕にできることは少ないかもしれないですが、僕達もその人達の力になりたいと、一緒に作業をすることにしました。その人は感情を伝えるのに難しい人でしたが、おどおどしてる僕に声をかけてくれる優しい心の持ち主でした。はじめは何を言っているのかが全くわからず、自分もどう返答してよいのか、どうコミュニケーションを取ればいいのかわからなくなり「うんうん」とうなずくことしかできませんでした。ですが明るい笑顔で話しかけてきているので、嫌なことを言われていないのはよくわかりました。生活支援センターのアシスタントの方に通訳してもらおうと目の前にあった壁が消えたかのようにスムーズにコミュニケーションが取れるようになりました。コミュニケーションが取り

れるようになってからは、お互いの雰囲気もより明るくなったように見え、会話がより楽しくなりました。また、生活支援センターの人達の様子を見てみると、簡単に作業することができない人でも、自分のペースでゆっくりと行っていることもわかり、僕も会話を楽しみながら自分のペースで作業するにしました。たとえ不自由でも活動することが苦しいことばかりではないことにも気がきました。それは僕らと一緒に、障害を抱えていても多くの希望に満ちていて、様々な可能性を秘めていると感じました。

これらの経緯をもって、僕にとつての障害を抱えた人の印象は大きく変わっていききました。今までの考えは知らなかったからこそ生まれた偏見で、これらの偏見が障害を抱えた人の生活に大きな影響を与えてしまっているのではないかと思えました。

最近、僕は「心のバリアフリー」という言葉を知りました。この言葉

を簡単に言えば、偏見をなくすことだと僕は思います。世界各国、施設のバリアフリー化は進んでいても、心のバリアフリー化はあまり進んでいないままです。障害を抱えていてかわいそうだ。障害を抱えているから何もできない。こんな考えをもっていることはとても悲しいことです。知らないということはとても危険で、僕自身も体験しましたが、そこから起こる事柄は正しいとは言えないことばかりだと思います。これは障害を抱えている人だけではなく、生活に不自由のない僕らでも同じく言えることです。人種や性別で勝手な偏見を持たず、知らないままにいるのではなく、知る努力をして理解するために広い視野で物事を考えることが、偏見をなくす第一歩に繋がると考えました。この偏見がいかに差別や迫害につながらないように、「心のバリアフリー」の理解度を高めていきたいです。

総評

五つの誓い

第三十二回岩手町福祉作文コンクールに、町内各小中学校や高校から七十一名の応募をいただきました。どの作品も、相手を思いやり、感謝や支え合いの心があふれる素晴らしいものでした。

特に、最優秀賞に輝いた小学校低学年の部の田村さんは、毎朝子供たちの安全を守るヒーロー丹内さんの優しさに触れ、私もみんなを見守るヒーローになりたいと述べていました。とても素敵でした。中学年の部の荒木田さんは車いすを使う祖母の介助等を行う中で、困っている人の手助けをしたいという決意を、また、高学年の部の千葉さんは障害をもつ方の努力に触れ、自分から声をかけみんなを助け合おうと呼びかけてくれました。思いやりの気持ちを行動に移す姿勢が大変嬉しく思いました。中学校の部の高橋さんからは自分自身に真摯に向き合い、自分の個性を大切にすることを強く、また、高等学校の部の府金さんからは、体験から課題を深く掘り下げ追究する姿勢

を学びました。そして、応募いただいたすべての皆さんから、周りの人の幸せを願う岩手町の小中・高校生の温かな心をいただきました。

ここで、腰塚隼人さんという方の「五つの誓い」を紹介したいと思います。

腰塚さんは、元中学校体育教師でしたが、スキーで転倒し首の骨を折ってしまいました。奇跡的に命はとりとめたものの、首からは全く動かなくなりました。絶望に打ちひしがれる毎日でしたが、家族や主治医、生徒たち、職場の同僚などの懸命な励ましを受け、奇跡的な回復力を見せました。腰塚さんは「自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること」に気づき、これからは「笑顔」「感謝」「周りの人の幸せを願う」ことで生きていくと、次の「五つの誓い」をたてました。

口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を用うために使おう。

耳は、人の言葉を最後まで聞いてあげる

ために使おう。

目は、人の良いところを見るために使う。

手足は、人を助けるために使おう。

心は、人の痛みをわかるために使おう。

人は、人に生かされ、人と生きています。

私たちは多くの人に支えられていることに感謝し、自分と同じように周りの人を大切に、笑顔あふれる温かな岩手町にしていきたいと思えます。

今、各校の福祉教育、ご家庭での教育や地域の教育活動の充実によって福祉の心が育ってきています。ぜひこの入選作品集の一つ一つから、岩手町の児童生徒のやさしい「心づかい」や「思いやり」に触れていただきたいと思えます。

最後になりますが、これまで児童生徒を導き、丁寧なご指導をいただいた各校の先生方のご労苦に敬意と感謝を表しますとともに、岩手町の子どもたちに温かな福祉の心を育てていただいているご家族の皆様、地域の皆様、社会福祉協議会等の関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

岩手町福祉作文コンクール審査委員長

岩手町教育長

佐藤 卓

岩手町金婚慶祝会

共に手を携え50年

町社会福祉協議会は令和6年11月7日、岩手広域交流センター・プラザあいを会場に「岩手町金婚慶祝会」を開催しました。結婚50年の節目を迎えられたご夫婦19組のうち、18組に参加いただきました。参加されたご夫婦は、共にこの日を迎えた喜びを分かち合い、これからも末永く手を携さえ、健やかに暮らしていくことを誓いました。



藤村清様・莊子様
(上大町)

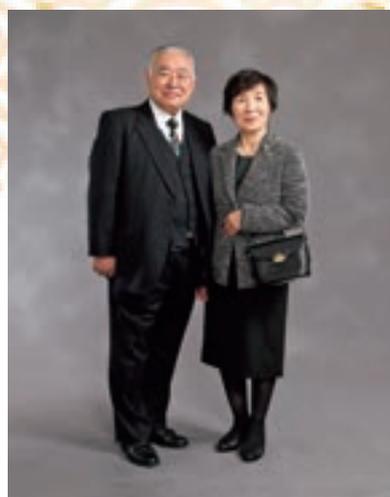


昆野功様・和子様
(新愛宕下)

結婚50周年を
迎えたご夫妻を
紹介します



金婚式を祝う水堀保育所の園児たちの踊りに頬を緩ませる参加者たち。夫婦共に歩んだ50年の節目を楽しく過ごしました



稲村吉則様・君江様
(下苗代沢)



久保憲雄様・修子様
(上五日市)



西舘正臣様・たき様
(笈の口)



柳本国男様・忍様
(一本柳)



越戸守様・ゆみ子様
(曲り)



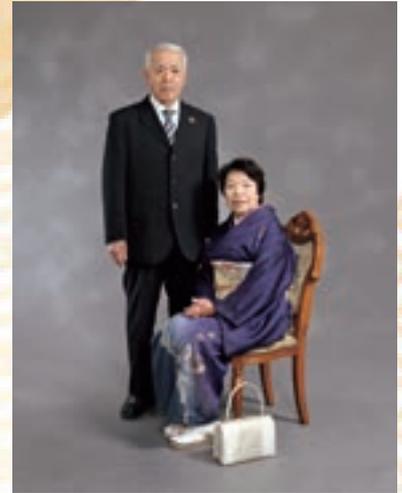
横田堅一郎様・アエ子様
(落合)



小沢進様・サツ様
(相寅瀬)



白樫誠一様・洋子様
(白樫)



幅清一様・フサ子様
(日の神子)



今松悟様・良子様
(今松)



川原光雄様・福江様
(大金沢)



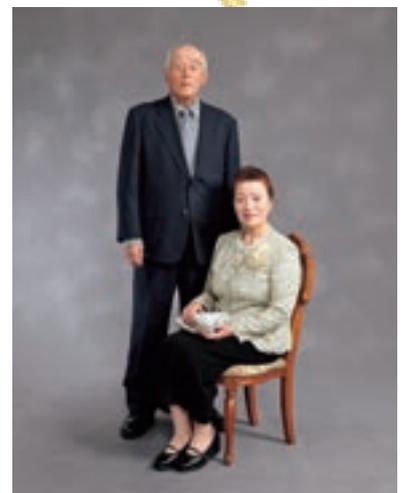
立花惇雄様・レウ子様
(相寅瀬)



田中二郎様・稲子様
(下浮島)



今松重一様・敬子様
(上鴨沢)



武田昭藏様・智子様
(上黒内)

皆さんの善意にありがとう



岩銀とNTTがバザー 収益金を町社協へ寄附

株式会社岩手銀行と東日本
 電信電話株式会社（NTT東
 日本）岩手支店は令和6年
 10月26日、盛岡市材木町よ市
 でチャリティーバザーを共同
 開催。収益金120、720
 円を岩手町社会福祉協議会へ
 寄附しました。

寄附金の贈呈式は12月17



実行委員会から寄附金の贈呈を受ける遠藤美江子副会長
 (右から2人目)

日、盛岡市にあるNTT東日
 本岩手支店第2ビルのイノ
 ベーションプラッツ2・5で
 開催され、岩手銀行・NTT
 東日本チャリティーバザー実
 行委員会のメンバーのほか、
 町社協からは遠藤美江子副会
 長が出席しました。

遠藤副会長は、「貴重な寄
 附をいただき感謝。同実行委
 員会が街のにぎわい創出と岩
 手の子どもたちのため活動し
 てきたことに敬意を表し、岩
 手町の子どもたちの幸せのた
 め、当会の事業に生かしたい」
 とお礼を述べました。

同実行委員会から寄贈され
 た寄附金は、当会が行う子育
 て支援事業などの費用に充て
 られ、町の皆さんの幸せ実現
 のために大切に使われます。



生活に困っている世帯を支援するため
 一方井小・中学校両PTAが食品寄贈

一方井の小・中PTA 食料品138品を寄附

一方井小学校PTAと一方
 井中学校PTAは令和7年2
 月6日、岩手町社会福祉協議会
 へパックご飯や乾麺などの食
 料品138品を寄附しました。

一方井中学校PTAは、令
 和6年9月3日にも食料品1
 27品を寄贈。その後、小学
 校PTAにも呼びかけ、合同
 での取り組みが実現しまし
 た。一方井中学校PTAの松

本剛会長は「満足にご飯を食
 べられない子どもが世の中
 にいる。生活に困っている家庭
 のため役立ててほしい」と期
 待を寄せました。

寄贈された食料品は、生活
 にお困りの世帯の食料支援な
 どに生かされます。

能登半島地震被災者へ 一方井小児童が義援金

一方井小学校の放送ボラン
 ティア委員会（6年・今松紗
 羅委員長）は、令和6年能登
 半島地震で被災した地域の一
 日も早い復興を願い募金活動
 を実施。令和6年11月6日に
 災害義援金7、935円を寄
 附しました。

皆さんから寄せられた義援
 金は、日本赤十字社を通じ、
 被災地の復興と被災者支援に
 充てられます。

社会福祉協議会会費(1世帯800円)・社会を明るくする運動募金(1世帯100円)

ご協力ありがとうございました

まちの福祉のために大切にに使わせていただきます

◎下記のとおり令和6年度分を報告いたします(行政区ごと)

(単位:円)

地区	世帯数	金額	地区	世帯数	金額	地区	世帯数	金額
前ヶ沢	15	13,500	上大町	27	24,300	下黒内	40	36,000
吉谷地	6	5,400	下大町	57	51,300	葉木田	41	36,900
御堂新田	12	10,800	上野口町	44	39,600	今松	52	46,800
御堂	35	31,500	下野口町	25	22,500	上嶋沢	50	45,000
水堀	30	27,000	上愛宕下	50	44,900	下嶋沢	31	27,900
小山沢	11	9,900	新愛宕下	79	71,100	上浮島	23	20,700
朽木林	20	18,000	下愛宕下	100	90,000	下浮島	75	67,500
北上	5	4,500	江刈内	51	45,900	岩崎	29	26,100
上横沢	22	19,800	石神	67	59,500	沼袋	18	16,200
下横沢	18	16,200	上苗代沢	35	31,500	子抱	20	18,000
尾呂部	55	49,500	下苗代沢1	32	28,800	芦田内	33	29,700
川原木	51	45,900	下苗代沢2	40	36,000	野原	78	70,200
笈の口	19	17,100	駅前	24	21,600	雪浦	53	47,700
豊岡	23	20,700	犬袋	111	99,900	橋場	147	132,300
大坊1・2	74	66,600	子抱団地	14	12,600	上町	31	27,900
岩瀬張	33	29,700	細沢	41	36,900	駅通	103	92,700
曲り	7	6,300	太田	52	46,800	下町・山道	81	72,900
一本柳・白樺・日の神子	36	32,400	横田	87	78,300	境田・ニツ森1・2	166	149,400
下屋敷・膝突・葉の木・上平	34	30,600	半在家	16	14,400	秋浦・高梨	32	28,800
大金沢・小金沢	15	13,500	久保・落合	53	47,700	土滝・雨滝	8	7,200
落葉・相寅瀬・万部	43	38,700	新田	45	40,500	子九十	12	10,800
大平	8	7,200	土川	59	53,100	大渡・遠中沢	21	18,900
上・下五日市	230	207,000	大森	25	22,500	太布	11	9,900
新町・城山	100	90,000	一方井	101	90,900	水無	22	19,800
民部田	118	106,200	中田	36	32,400	丸泉寺	10	9,000
柳橋	35	31,500	黒石	64	57,600	穀蔵	4	3,600
館	107	96,300	大股	10	9,000			
田中・栄小路	45	40,500	上黒内	21	18,900	合計	3,764	3,386,700

社会福祉協議会会費は…

1世帯
800円のご協力

地域福祉ネットワーク事業、高齢者福祉サービス、福祉団体等の育成、子育て支援、ボランティア活動支援、福祉教育の推進等、社会福祉協議会が実施する様々な福祉活動の運営費に充てられます。

誰もが、住み慣れた町で安心して過ごせるよう、住民参加による生涯現役の福祉のまちづくりを目指し、地域に寄り添った事業を展開してまいります。

社会を明るくする運動募金は…

1世帯
100円のご協力

岩手地区(岩手町・八幡平市・葛巻町)保護司会の活動資金に充てられます。

保護司は、犯罪や非行に陥った人の更生を支援するとともに、地域の犯罪・非行の予防を図る活動は無償で行なっている民間ボランティアです。保護司の活動に協力する趣旨の募金です。

令和6年度

岩手町社会福祉協議会特別会員の紹介

令和6年度岩手町社会福祉協議会特別会員の皆さまに感謝申し上げますとともに、ご協力いただいた会費は社会福祉協議会の運営費、高齢者福祉・福祉教育・ボランティア活動などの事業費として地域福祉向上のために有効に活用させていただきます。

佐々木光司	吉田 和彦	竹花 勇治	久保 栄司
四日市里美	高橋真友子	千葉 英之	高橋 昭子
横澤 晃子	丹内 貴明	鈴木 智子	金澤 浩美
宮田 誠	柵山 実	畠山 茜	西島佳苗子
須賀太仁子	大澤 直樹	早坂真奈美	田屋 千秋
工藤 晋	高橋 宗介	畑中 鉄実	三ツ谷賢司
上澤 一久	山中 寿行	地舘 浩二	笹渡 輝昭
阿部 智光	熊谷 洋造	阿部 陽子	高橋 良美
遠藤 康平	八戸 裕雄	田村 律子	田中 盛夫
佐藤 博光	高橋 大記	松田 伸	千葉 優子
阿部 嘉仁	佐藤 亘	帷子 晃弘	佐々木一馬
滝川 勉	岩崎 朋之	竹田 宏記	越戸沢友樹
佐藤 卓	井上 祐司	田村 秀彦	丹内 真子
西島 寿紀	藤澤 祐介	大巻 和紀	田村 育江
志田 順悦	田中アサ子	武田 茂	朽木元治郎
中居 拓也	浦田 誠子	笈口 一美	佐々木義昭
武田 光清	府金 義明	伊藤 正信	千葉 岩男
松山 宗治	小島 英亮	田中 二郎	田村 正
竹花 正雄	杣 直晃	小林 信夫	熊谷 哲夫
江刈内優子	村木光由規	久保 早苗	水堀 一男
澤屋敷民子	北上 雅宣	竹田徳一郎	太田代朝子
福田 幸江	森子百合子	民部田雅夫	乙茂内利夫
岩崎 光雄	高橋 満	岩舘 カツ	中澤真紀子
水谷 文子	田中 幾子	浅沼 良子	柴田 輝子
三浦 好隆	久保 恵子	田中 恭子	三浦増右エ門
北構 政美	山中まき子	木戸口勇三	佐藤 一志
田中 幸子	千葉 静子	工藤 正敏	花田 和子
高橋 健悦	三好 昇	高村 治雄	吉田えり子
佐々木夏子	中関 康一	中花キミエ	千葉 聖子
今松 栄光	千葉 茂	武田 昭藏	遠藤 正信
千葉喜代子	田中きくえ	武田 栄一	千葉 典夫
田中 直登	村井 敦子	武田 洋子	久保 良子
藤原 徳明	遠藤美江子	瀬川 正春	佐藤 竜一
竹田 洋子	澤口 寿	早坂真由美	高村真木子
堤 真希子	荒屋 静香	滝本菜奈香	高橋 鈴香
佐藤 千尋	畠山 麻実	松森 幸子	千葉麻美子
三浦詩緒吏	山崎 玲奈	八重畑美香	佐藤 陽菜
三浦 深幸	柵山 晃子	星野 佳織	橋本 里奈
遠藤 百恵	佐藤 寛子	小野寺裕香	佐々木康博
三浦 吟子	遠藤 美恵	佐藤 毅	高橋めぐみ
小林 知世	立花紀代子		



令和6年度 赤い羽根

令和6年10月1日から12月31日まで行った赤い羽根共同募金運動では、町内各世帯をはじめ、学校や職場などから総額4,399,911円のご協力をいただきました。

この募金は、当会が行う高齢者や障がい者などを対象としたさまざまな地域福祉活動に役立てられます。

岩手町内の学校から届いた優しさ

川口小学校



沼宮内高等学校



このほかにも町内の学校から赤い羽根共同募金が寄せられました。心のこもった募金を誠にありがとうございました。

歳末たすけあい募金 地域歳末たすけあい運動

地域歳末たすけあい運動は、「みんなでささえあう、あったかい地域づくり」がスローガンです。

当協議会では、申請のあった町内の生活困窮世帯などを対象に、地区の民生委員を通じて、町民の方から寄せられた温かい善意を歳末たすけあい募金として配分しています。

56世帯へ義援金

配分対象及び経費	配分額
著しく生活にお困りの世帯…52件	520,000円
障がい児・者のいる世帯…4件	40,000円
合計	560,000円



共同募金 ご協力ありがとうございました

令和6年度 募金実績

◆戸別募金(一般募金・歳末募金)

(単位：円)

地 区	世帯数	一般募金	歳末募金
前ケ沢	15	13,500	3,000
吉谷地	6	5,400	1,200
御堂新田	12	10,800	2,400
御堂	35	31,500	7,000
水堀	31	27,900	6,200
小山沢	11	9,900	2,200
朽木林	20	18,000	4,000
北上	5	4,500	1,000
上横沢	22	19,800	4,400
下横沢	18	16,200	3,600
尾呂部	55	49,500	11,000
川原木	51	45,900	10,200
笈の口	19	17,100	3,800
豊岡	22	19,800	4,400
大坊1・2	72	64,800	14,400
岩瀬張	33	29,700	6,600
曲り	7	6,300	1,400
一本柳・白根・日の神子	36	32,400	7,200
下屋敷・藤突・葉の木・上平	34	30,600	6,800
大金沢・小金沢	15	13,500	3,000
落葉・相寅瀬・万部	43	38,700	8,600
大平	8	7,200	1,600
上・下五日市	230	207,000	46,000
新町・城山	100	90,000	20,000
民部田	117	105,300	23,400
柳橋	37	33,300	7,400
館	107	96,300	21,400
田中・栄小路	45	40,500	9,000

地 区	世帯数	一般募金	歳末募金
上大町	28	25,200	5,600
下大町	59	53,100	11,800
上野口町	41	36,900	8,200
下野口町	25	22,500	5,000
上愛宕下	49	44,100	9,800
新愛宕下	81	72,900	16,200
下愛宕下	95	85,500	19,000
江刈内	51	45,900	10,200
石神	74	66,300	14,400
上苗代沢	40	36,000	8,000
下苗代沢1	34	30,600	6,800
下苗代沢2	43	38,700	8,600
駅前	24	21,600	4,800
犬袋	111	99,900	22,200
子抱団地	14	12,600	2,800
細沢	41	36,900	8,200
太田	51	45,900	10,200
横田	87	78,300	17,400
半在家	16	14,400	3,200
久保・落合	53	47,700	10,600
新田	45	40,500	9,000
土川	59	53,100	11,800
大森	25	22,500	5,000
一方井	101	90,900	20,200
中田	35	31,500	7,000
黒石	64	57,600	12,800
大股	10	9,000	2,000
上黒内	21	18,900	4,200

地 区	世帯数	一般募金	歳末募金
下黒内	40	36,000	8,000
葉木田	41	36,900	8,200
今松	52	46,800	10,400
上鳴沢	50	45,000	10,000
下鳴沢	31	27,900	6,200
上浮島	23	20,700	4,600
下浮島	68	61,200	13,600
岩崎	29	26,100	5,800
沼袋	18	16,200	3,600
子抱	20	18,000	4,000
芦田内	33	29,700	6,600
野原	76	68,400	15,200
雪浦	52	46,800	10,400
橋場	150	135,000	30,000
上町	31	27,900	6,200
駅通	104	93,600	20,800
下町・山道	81	72,900	16,200
境田・二ツ森1・2	164	147,600	32,800
秋浦・高梨	32	28,800	6,400
土滝・雨滝	8	7,200	1,600
子九十	12	10,800	2,400
大渡・遠中沢	21	18,900	4,200
太布	10	9,000	2,000
水無	22	19,800	4,400
丸泉寺	9	8,100	1,800
穀蔵	4	3,600	800
合計	3,764	3,387,300	752,400

◆職域募金

(単位：円)

職 場 名	一般募金
長沢歯科医院	2,203
佐渡医院	6,335
有限会社 高橋商店	2,651
株式会社 佐藤建設	30,000
㈱高橋建設	5,000
有限会社 中居建設	5,000
沼宮内歯科医院	10,000
特別養護老人ホーム あんずの里	28,812
新岩手農業協同組合岩手支所	3,000
㈱サンデー ホームマート沼宮内店	1,441
佐藤整形外科クリニック	4,207
北上脳神経外科クリニック	13,390
ケアホーム川口	1,119
盛岡中央消防署 岩手分署	2,100
特別養護老人ホーム ラベンダー	3,903
㈱宮崎商店	1,122
塚谷医院	10,070
岩手町役場	28,158
岩手町社会福祉協議会	13,703
職域募金合計金額	172,214

◆学校募金

(単位：円)

学 校 名	一般募金
岩手県立沼宮内高等学校	6,439
岩手町立沼宮内小学校	3,417
岩手町立一方井小学校	4,510
岩手町立川口小学校(児童会)	23,051
学校募金合計金額	37,417

◆興行募金

(単位：円)

募 金 者 名	一般募金
南山形地区文化祭実行委員会	25,100
岩手町民生委員児童委員全員協議会	18,377
興行募金合計金額	43,477

◆その他募金

(単位：円)

募 金 者 名	一般募金
匿名	2,389
匿名	3,516
匿名	1,185
預金利息	13
その他合計金額	7,103

◆募金合計

(単位：円)

一般募金合計額	3,647,511
歳末募金合計額	752,400
共同募金合計額	4,399,911



まちの福祉

子育てサロン「すくすく」



4月からの「すくすく」

- ◆ 4月24日 (木)
岩手町の名所を巡ろう (町内)
 - ◆ 5月22日 (木)
バスに乗って出かけよう (葛巻町)
 - ◆ 6月26日 (木)
お花と茶の湯を楽しもう (保健センター)
 - ◆ 7月24日 (木)
ランチを楽しもう (レストラン石神の丘)
 - ◆ 8月28日 (木)
子どもの森で遊ぼう (一戸町)
 - ◆ 9月25日 (木)
「たみっと」へ行こう (盛岡市)
 - ◆ 10月23日 (木)
りんご狩りをしよう (だいくば農園)
 - ◆ 11月27日 (木)
食育について学ぼう (川口公民館別館)
 - ◆ 12月23日 (火)
クリスマスレシピを学ぼう (保健センター)
 - ◆ 1月22日 (木)
節分の飾りを作ろう (保健センター)
 - ◆ 2月26日 (木)
ひな祭りレシピを学ぼう (保健センター)
- ※ 3月の「すくすく」はお休みです。



岩手町食生活改善推進員の皆さんと楽しく豆腐作りに触れ合った「すくすく」参加者の皆さん

食改の作業間近に見学 香り広がる豆腐を満喫

2月の子育てサロン「すくすく」は、一方井公民館で「豆腐作りを見てみよう」を開催。岩手町食生活改善推進員の皆さんによる豆腐作りを見学しました。湯気とともに広がる大豆の甘い香りの中、出来立ての豆乳や寄せ豆腐を試食。お土産に豆腐やおから、おからを使った餃子やサラダをもらい、豆腐作り見学を満喫しました。

令和7年度4月からの「すくすく」は、季節の料理レシピを学んだり、バスに乗って岩手町の名所やオープン間もない道の駅もりおか渋民へ出かけたりと、楽しい内容を企画。ぜひ、お誘い合わせの上、ご参加ください。

編集後記

早いもので、もう年度末の3月ですね。今年度もたくさんの方に社協だよりを手にとり取っていただきありがとうございます。今後さらさらに充実した内容をお届けできるよう頑張りたいと思います。来年度もどうぞよろしく
お願いいたします。
(田村)

ご寄附
ありがとうございます
ございました

ご寄附いただいた方の紹介

寄附者・寄附団体名

- ぬくみの会 会長 圓子理江子様……………10,000円
 - いわてまち女性の会久保会様…………… 3,156円
 - 岩手銀行・N T T東日本チャリティバザ-実行委員会様…120,720円
 - いわてまち女性の会 会長 久保良子様……………35,000円
 - いわてまち女性の会沼宮内支部 会長 久保良子様15,000円
 - みちのくコカ・コーラボトリング(株)西根営業所様……………741円
 - 新岩手農業協同組合女性部岩手支部様……………20,000円
 - 一方井小学校P T A・一方井中学校P T A様… 乾麺等 138品
- 【令和6年11月1日～令和7年2月28日受付分】